毒結毒、疥癬、臁瘡、紫白、癜風、幷に金瘡のいゑんと欲していへかぬる類、婦人の血積、瘀血、經行不順の症、滯下腰冷、下部一切の病、これらの諸病はいづれも温泉によろし、

一又温泉によろしからざる病は、氣血虛損、勞倦不足の諸症、もろ〳〵の失血後、津液の乾燥たる病人、脾胃虛勞咳の類は、もとより論ずるにをよばず、邪熱虛熱ある人には甚あしゝ、病をそへてあやうきにいたる、つゝしみて浴すべからず、無病たり共、生質はなはだ虛弱の人亦浴すべからず、

〔温泉小言〕一故に諸國の温泉ある所、一所に湯壺のいくつもある所あり、土地がひとつ所なりとて、その湯に差別なしとおもふべからず、湯壺と相去ること、纔か二三間のあいだにて、その湯の性大に相違するあり、是そのわかす地中の火はおなじ火なれ共、其湯となる水筋の相違、或は又土中にてすでに湯となりて後、その湯のくゞり來るすぢ〳〵に相違ある故なり、肥前温泉山の上に湯壺いくらもあり、その湯壺の相去ること纔か四五間、或は八九間のあいだなり、纔か見へ渡る程の所のことゆへに、その湯に差別あるまじきことなるに、その湯の色、米泔汁を見るがごとく白き湯あり、又青黑色なるあり、砥汁のごときあり、その湯皆極熱にて、人の浴すべき湯にあらず、土人これを名づけて地獄といふ、浴せぬゆへにその性效はゑらねども、色さへかくのごとく大相違あるなれば、その性の相違は決定なり、是湯壺の所の土氣に相違もなく、沸す地中の火に相違もなき筈なれども、その湯壺々々の水筋の相違、或は土中にて湯となりて後、その湯のくぐり來る筋々に相違あるゆへにかくのごとく色に相違あり、但州城崎の温泉も新湯と瘡湯と、そのあわひ纔かの所なれ共、新湯は瘡を發し、瘡湯は瘡をいやす、曼陀羅湯は、東槽は瘡を發し、西槽は瘡を愈す、これも右之理とおなじことにて、その湯壺々々へ來る湯の、筋々ちがふゆへなり、わかす火に相違あるにあらず、